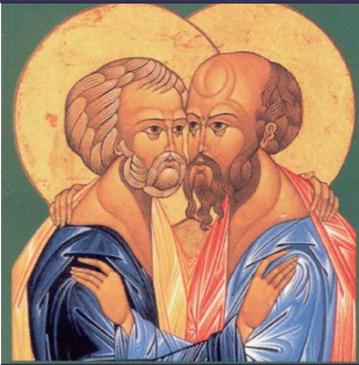


6 月の予定

委員会	6 月 8 日
典礼委員会	6 月 1 日
子供のミサ	6 月 22 日
愛の献金・教会建物を考える会	6 月 22 日
ヨゼフ会例会	6 月 15 日



聖ペトロと聖パウロ

# 2008 年 6 月号

中和田カトリック教会  
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1  
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 20 年 6 月 8 日



## モーセ、その召し出し

主任司祭 小林 陽一



モーセは、紀元前 13 世紀頃エジプトの地で生まれました。エジプト王、ファラオは、国内のイスラエル人の人口が増大するのを恐れて、イスラエル人の、生まれた女の子は生かし、生まれた男の子はすぐに命を絶つように命令を出しました。命令通り、それがうまくいかないと分かると、ファラオは、「生まれた女の子は生かし、生まれた男の子はナイル川に投げ込むように」と命令を出しました。こうした状況にあって生まれたモーセは、母親の手元で育てるのがむづかしくなったとき、母は、やむなく、パピルスの籠に防水をほどこして、その中にモーセをのせて、ナイル川の葦の茂みの間に置きました。

その時、ファラオ王の王女が水浴びに来ていて、モーセをのせたパピルスの籠を見つけ、こうしてモーセはエジプトの朝廷で育てられることとなりました。

成人したモーセは、イスラエル人である自分の同胞が、毎日重労働を課せられて苦しみ抜いている有様を見て、エジプト人をあやめ、その為に追われる身となり、エジプトからシナイ半島のミディアンの地に移り住むようになりました。ここでミディアンの司祭に認められ、羊飼いの仕事をするようになりました。モーセは、この地で神と出会う不思議な体験を致します。

羊飼いのモーセは、羊の群を追って、神の山ホレブ（シナイ山）にやって来ました。そこで柴が燃え上がり、その炎の中に天使が現れました。見ていると、柴は燃え上がるが、燃え尽きることはない。その柴の中から神がモーセの名を二度呼びました。「はい」と答えたモーセに、神は「ここに近づいてはならない。履き物を脱ぎなさい。お前の立っている場所は聖なる土地だから」と言われました。さらに神は「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」と言われ、モーセは、神を見ることを恐れて、顔を覆いました。

神は、エジプトにいるイスラエルの民の苦しみをつぶさに見て、「イスラエル人の叫びを聞き、痛みを知った」と言われました。さらに、「私はお前をエジプトのファラオ王のもとに遣わす。イスラエルの民をエジプトから連れ出すのだ」とモーセに命じました。

ここでモーセは、「私は何者でしょう。どうして私がファラオのもとに行き、イスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか」と神に聞きました。モーセは神から説き伏せられ、神はモーセに「私はある。あるという者だ」と言いました。

「エジプトにいるイスラエル人にこう言うがよい。『私はある』という方が、あなた達に私を遣わされたのだ」と神は言い、さらに「エジプト王に言いなさい。『ヘブライ人の神、主が私たちに出現されました。どうか、三日の道のりを、荒れ野に行かせて、私たちの神、主に犠牲を捧げさせてください』と。」これが、モーセへの神からの召し出しでした。神は、モーセの生涯のいちばん大事なところで、直接関わり、任務を与え、ご自分に従うよう呼びかけました。

神はエジプトの任務を果たせるように、モーセにアロンを従者として遣わし、また、杖を与えて、エジプトに行くよう促しました。エジプトに着いたモーセは、何度もファラオと交渉し、神に導かれてイスラエルの民をエジプトから脱出させました。

私たちが神から何らかの召し出しを受けたとき、モーセのように、神に助けを何回も願い、一步を踏み出すことが大切です。困難に遭っても、必ず神は助けてくださると信じ、信仰の旅を歩みましょう。

4月5日戸塚教会にて、カンペンハウド神父さまの「子どもに関わりの深い秘跡ー聖体・ゆるしーについて」の講話を伺いました。中和田教会から、今回は4人のリーダーと一緒に参加することができましたので、これから活動を考えていく際、共通理解をもって前向きに取り組むための、とても良い機会となったのではないかと考えております。

子どもたちの信仰の成長のための養成という、教会の大切な務めについて、カンペンハウド神父さまは、短い時間で大変易しく、分かりやすくお話し下さいました。神父さまご自身から溢れ出る豊かな知性と、秘跡の深い神秘を間近に感じさせられながら、私たちだけでこの講話を聞くのはもったいなく思ったほどです。そのお話の中から、神父様が強調されていたと感じた事柄について、私の理解の範囲で分かち合わせていただきたいと思います。

テーマである「聖体とゆるしの秘跡」を、子どもに関わりの深い秘跡として、親、リーダーまた信仰共同体それぞれの立場で、どのような認識をもって心に留めなければならないか、私たちは改めて自らの信仰を問い直しつつ、一生懸命傾聴致しました。それで、まず心がけるべきことは、幼児洗礼の子どもにカテケジスを行うとき、秘跡についての内容を部分的に、個別に教えるのではなく、成人のカテケジスに沿って行うべきであること。即ち～イエス・キリストを知る（聖書、教会の教え）と共に、典礼に親しみ、参加し（秘跡、典礼暦年）、祈り（感謝、信頼、願い、賛美）、イエスの弟子として生活し（愛、正直、節制）、そして共同体の交わりの中で、共同体の使命に与る～と言う、信仰養成全体の流れの中で、秘跡を味わわせることが必要であるということでした。侍者や奉仕、共同体の交わりの中に、自分の居場所を見つけることは大切です。良いカテケジスと良い共同体との交わりは一つではないでしょうか。

次に、信仰養成の各段階： 教会学校の入学式（キリストの弟子になる）、～初聖体（共同体とともに、ご自分の命をお与えになるキリストの食卓に与る）～6年生を中学生会に送る式（堅信の準備）～堅信（派遣）：このような養成、成長の節目を大切にすることは、特に通過儀礼を重んじる日本において、子どもの信仰を育てるチャンスとなり、また親は勿論、共同体の責任をも同時に認識する良い機会となります。その為に、ミサの中で秘跡を受ける子どもの紹介をしたり、子ども自身が志願の意思表明をすること、また祈りによって共同体に支えていただくという意識をもつことは、共同体と子どもたちが互いにつながりを意識しあう大切なときです。：参考資料「中高生会新入歓迎式」を頂きました。

また、秘跡の理解について教えるには、シンボルを大切にすることを強調されました。特に、秘跡に使われるもの（例えばパン）を考えるよりも、動作（例えば、十字架の印をする、パンを裂く、パンを食べる）を大切に、丁寧に、分かりやすく行いながら、秘跡を有効にする言葉とともに、秘跡が行われるミサ全体を考えるように促すことです。秘跡を授かる時の様々なシンボルは、たくさんありますね。洗礼：水～水に沈める～出る（死と生命）、ろうそくの光、白衣（キリストに包まれる）、堅信：

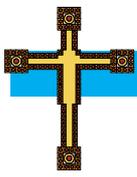
油～塗る、按手（聖霊を受ける）などなど。また、聖なる三日間、特に復活徹夜祭の典礼（光の典礼、水の典礼）を、フランスの司教団は信仰教育のプログラムの中心としているそうです。このように、シンボルをあらゆる動作の意味を子どもに教え、丁寧に動作を行うことは、講話を聞くよりも子どもの心に残るとおっしゃいました。実際、体験からもその通りだと感じます。

聖体の秘跡について： 聖体（と堅信）を正しく理解するためには、まず洗礼の秘跡の恵みを理解することが大切です。すなわち、洗礼を授かったことによってキリストの死と復活に与り、キリストに結ばれて新しい人となって生きる恵みを頂きました。その恵みの働きは今も、そして最後まで継続することを理解することです。この信仰を元に、幼児洗礼である子どもの信仰の成長を期待しながら、親とリーダーが協力して準備し、初聖体の大切な時を迎えます。秘跡を授かるにあたって、親から子へ、ありのままの信仰を真実な思いで伝えること、ミサに与る前の心の準備、祈りなど、家庭において信仰を継承することの大切さを改めて確認し、実践するときです。手ほどきとして、「初聖体と初めてのゆるしの秘跡」のプリントを頂きました。また主日の聖体は、週の初めの日に、主イエスを思い起こすために信者が集まり、一つのパン、一つの食事をし、イエスにいつも養われている喜びを分かち合っ一つになること。ミサを理解するために、エマオの弟子と復活されたイエスとの出会い（聖書を説明し～パンを分け与え～みことばを伝えるよう働く）を考えることなど、生き生きとした信仰の姿をお伝え下さいました。私たちもくりかえし伝え、信仰を体感できるように祈り、工夫していきたいと思いました。

ゆるしの秘跡について： 初めてのゆるしの秘跡は、初聖体の条件として位置づけるのではなく、大切なのは、ゆるして下さる神さまと私のすばらしい出会いを味わうことです。神さまの愛と出会い、新しい出発の希望が与えられること。その為に明るい場所で秘跡を受け、喜び合うパーティーを行うことも勧められます。また赦しの喜びを味わうきっかけとして、日常生活の中での赦しの体験（お母さんに失敗を赦される）をすることが、神との和解を真に実感する経験に繋がるとおっしゃいました。確かにそうだと思います。：参考資料「青少年のための共同回心式」を頂きました。

今日の課題として、子どもたちを取り巻く文化、環境の変化（ゲーム、携帯電話、パソコンなど）の影響は、時間と空間の捉え方を変えてしまい（歪めてしまったかもしれないね）、たびたび子どもたちの心を支配してしまいそうになります。目に見えない世界の大切さを伝えること、精神、心の在り方などを、子どもの心に響かせることの難しさを感じさせられます。・・・私たちはどのように祈り、イエスさまを愛するために、子どもたちといっしょに何ができるのか・・・そのような問いかけを改めて見据える曲がり角、原点に立っているように思います。神さまが、無力な私たちを助け導いてくださいますように祈りつつ。





# 2008年3月19日の聖香油ミサにおける梅村司教様の説教

文責 主任司祭 小林 陽一

司教座聖堂において、2008年3月19日(水)午前11時から、横浜教区長梅村昌弘司教様司式の聖香油のミサがあり、横浜教区から約60人の司祭が参加した。そのミサの梅村司教様の説教の要旨は次の通りです。

2007年4月8日、復活祭の日に、「共同宣教司牧に向けた新たな宣教司牧評議会と地区共同宣教司牧委員会」司教教書を皆さんにお届けした。2007年4月8日付けの司教教書ですが、(この教書実現に向けて)2007年は試行期間であり、2008年4月から完全実施にします、と致しました。

この点で、説明不足があったと思います。完全な実施は、全てがととのった形で・・・と思っている司祭もいると思います。完全な実施は、全てが整ったという意味ではない。少なくとも、地区福音宣教委員会は廃止して、地区毎に、地区共同宣教司牧委員会を作ってくださいという意味であって、求めていること全て充実しなければならないというわけではない。この復活祭(2008年3月23日)に、人事異動があり、協力していただいた。復活祭は、今年は早いので、苦勞している司祭もいると思う。赴任した小教区に落ち着くには時間が必要。地区のヴィジョンも、ゆっくりとあせらずに信徒に伝えてください。(新たな)宣教司牧評議会にしても、異動が終わって落ち着いてから、評議会のメンバーを選んでいきたい。

司教教書、共同宣教司牧に向けた新たな宣教司牧評議会と地区共同宣教司牧委員会に先立って、改革の基本方針4つを出した。新たな宣教司牧評議会は、4つのうちの1つ。聖霊に信頼、とあるように、急がず、地道にやっていきたい、と述べています。多様性のなかの一致、補完性の原理は、それぞれ地区が違っているし、置かれている状況が違う。制度は、意識改革が伴わないと形骸化してしまう。(一部省略)

きよなが師(司祭25周年)は1983年8月25日に叙階された。この復活祭後、さいたま教区・鹿島教会に行くため、今日が最後になる。木村義男師は1958年3月21日に叙階され、金祝。今日は司祭団としてお祝いになる。平塚教会のランチフィールド師のお兄さんが2月3日死去された。また、濱尾枢機卿様(2007年11月8日帰天)のお兄さんが3月19日に亡くなっておられ、濱尾枢機卿様は生前お兄さんの為に祈って下さいと言っておられた。(以後省略)

## 春の遠足

保科 桂子

「ぼくは運動会には出ない。見てる。」と、前の晩から何度も言う息子(小学1年生)。なんとかなだめて、すかして、「見ているだけでいいよ。」と言いながら、集合場所の戸塚駅へ行きました。

朝のうちの雨も、みるみる天気回復して、日傘が必要なくらいの上天気。熱い日差しの中、野外ミサと運動会に参加しました。紫・緑・白・赤という4色(なんの色かと思ったら、神父様の祭服の色だったのですね)のチーム分けで、緑チームの我が息子、借り物競走やリレーなどの種目に参加しました。それはそれは楽しそうで、あんなに嫌がっていたのがうそみたい。「かけっこをがんばったよ」と、天気以上に上機嫌でした。おにいさんやおねえさんたちに声をかけてもらって、やさしくもらったからこそと思います。やっぱりお友だちとの時間って、何よりも楽しいのですね。

ふと、私が1年生の時の教会学校の遠足(確か大船フラワースセンターだったような…)で、大縄跳びに後込みしていた私と、叱咤激励(?)していた母を思い出しました。間違いなく親子なんだわと思った次第です。

みそこ 光き

ぼくは、むらさきチームでした。リレーをがんばって、たのしかったです。むらさきチームが一番になって、金メダルをもらいました。うれしかったです。



### バザー担当グループ(アンドレグループ)より

6月22日(日)ミサ後、二階和室で不用衣類の販売をいたします。

なお、不用衣類を提供していただける方は、それまでにご持参ください。

皆様のご協力よろしく願いいたします。

代表 中島

## 委員会だより

△5月4日(日) 9名出席▽

### ■小林主任司祭挨拶

教区の方でいろいろな教育・育成プログラムを用意している。多くの方に是非参加して頂きたい。

### ■審議事項

- ◆ 教会委員会開催日を毎月第1週から第2週へ、典礼委員会の開催日を第2週から第1週へそれぞれ変更。6月度から施行。△決定▽
- ◆ 理由(1) 毎月月末締め財務報告の、教会委員会への報告の円滑化
- ◆ 理由(2) 教区月修での緊急課題への対応(司教様指示等を信徒に早く伝える。)
- \* 上記により、「典礼こよみ」の更新は、「典礼Gが起案―典礼委員会確認(第1週)―教会委員会確認・確定(第2週)―広報G・事務Gへ」の順となる。

### ■各グループ連絡・報告事項

- a. 営繕G
  - ◆ 「教会建物を考える会」の進捗報告
  - ◆ 4月度発生費用・5月度発注予定の内容説明 △承認▽
  - ◆ 耐震チェックに関する段取り・経費の説明 △小林神父要請の確認事項あり▽
  - ◆ 鶴田さんに庭用ベンチを2脚作って頂いた。有難うございました。早速設置場所検討する。
  - ◆ その他検討事項(聖堂床下周り、聖堂照明器具、水道設備、など)
- b. 財務G
  - ◆ 4月度はほぼ計画通りに推移、トピックスとしては教育養成費、渉外費など
- c. 行事G
  - ◆ バザーの製品づくりを始めている
  - ◆ 高齢化が進み、もう製品づくりなどバザー準備体制は曲がり角に来

ている。来年度は根本的な見直し必須だが課題多し。△継続審議▽

### d. 宣教G

- ◆ 4/27に開催された第5地区合同春の遠足は大盛況裏に無事終了。
- ◆ 7/26・27に教会学校・夏期合宿を行う。DVD教材も使うので別途教材・必要設備起案
- ◆ 教会学校の普段のお勉強は聖堂で行っているが、今後ワイヤレスマイクを使用して行う。

### e. 広報G

- ◆ 「小林神父要請」教会入り口のポスター掲示板について。ポスターのないときは聖句を掲げる。
- ◆ 教会のイベント記念写真の配布法。昨年トラフルを踏まえ必ず当人に手渡すこととする。

### f. 福祉G

- ◆ 教会ホームページ。信徒個人氏名を同定出来ない仕組みづくり(↓本件過去(2004年以前)の該当ページ削除など対応済)
- ◆ 4/17に行ったG打合せの報告並びに使用する経費の勘定科目に関する議論
- ◆ 「愛の献金を考える会」の進捗報告
- ◆ 小林神父コメント(上記と重複しない項目のみ)
- ◆ 第5地区共同宣教司牧委員会(4/20) 教区ビジョンの策定は次回(7/6)
- ◆ 司祭召命の集い(6/21・22) 5/3現在参加申し込み無し。引き続き呼びかけたい
- ◆ 聖体奉仕者 現奉仕者の任期満了。新規任命についてはいろいろ要望を聞いて考えたい。



## 08年5月委員会後記 小野委員長

例年の通り、秋のバザーに向けて製品づくりなどの準備が行事グループを中心に行われています。皆様ご承知の通り中和田教会も高齢化の流れの中に在り、日頃バザーに協力頂いているご年配の方々のご負担が次第に重くなつて来ております。高齢化の課題は以前よりいろいろな形で提起されてきたのですが、残念ながら有効な策が無いまま今日に至っております。教会によって運営の仕方がだいぶ異なりますが、高齢化の課題は程度の差はあってもどの教会でも抱えている課題だと思っております。この際、他教会の事例をよく勉強してみるのもひとつの方法かと思っております。

来年度は見直すべきタイミングと感じます。高齢化の課題はバザーに限りませんが、アドバイスやご提言がありましたら教会委員までお知らせ願えれば幸いです。

4/27に第5地区合同の教会学校春の遠足が栄光学園で開催され、大盛況裏に無事終了したことを参加された方から伺いました。地区全体の教会学校が連携して活動を盛り上げていることは、まことに喜ばしい限りです。日頃教会学校の運営に尽力されている皆様のご努力に御礼申し上げますと共に、教会全体で今後もバックアップしていきたいと念じております。また、7月26・27日の両日に中和田教会学校の夏期合宿が行われますので、こちらも皆様のご支援を是非宜しくお願い申し上げます。

## 5月の要理学校だより

### ◆親の集い 5月18日 (8名出席)

#### 5月の活動報告

- ◆ 5/18 石井リーダーから「マリアさま」についてのお話  
『お母さん』をテーマに、子どもたちに絵や言葉を書いてもらいました。にこにこ顔のお母さん、いつもやさしいお母さん。たくさんのお母さん像が見られました。『みんなのお母さん像 イコール マリアさまだよ』と言う事を伝えました。最後に『マリアさま』という絵本を読んで聞かせました。(Y. I)
- ◆ 5/25 トーンチャイムで遊ぼう!  
この日はジャガイモ畑の草取りをする予定でしたが、あいにくの雨で中止。皆でトーンチャイムを演奏して遊ぶことにしました。トーンチャイムはハンドベルの兄弟のような楽器でその音色は柔らかく、やさしいので癒しの楽器として音楽療法などでよく使われます。一人一人が自分の音を担当し、グループ全員が一つになった時、素敵な音楽になります。子どもたちはいろいろな音が出るのか、どんな音楽になるのか、不安ながらも一生懸命取り組んでくれました。「マリアさまのこころ」がお御堂一杯に鳴り響いたとき、満足げに微笑んでいました。(Y. I)



#### 6月の活動予定

- ◆ 6/15 「イエスさまのみこころ」について 美底リーダー
- ◆ 6/22 ジャガイモの収穫 保科リーダー
- その他
  - ◆ 5/11 小学生の侍者の練習をしました。
  - ◆ 6月の子供ミサで収穫したジャガイモを奉納する。
  - ◆ 6/8に夏期学校についてリーダーたちで話し合う。

